

令和 7 年 西脇知事と行き活きトーク 主なご意見と京都府の対応

回	日程	場所	市町村	テーマ
111	1月15日	大谷大学 京都／本部キャンパス	京都市	子育てしやすい環境づくり
112	3月18日	サンガスタジアム by KYOCERA 備蓄倉庫	亀岡市	地域防災力の向上について
113	4月10日	洛西境谷会館	京都市	安心・安全なまちづくり
114	5月9日	堀川団地 出水第3棟 317号 “no.317 ANEWAL Gallery”	京都市	商店街を核とした地域活性化
115	5月22日	京都高等技術専門学校	京都市	ものづくり産業を支える人材育成
116	5月31日	京都府立農芸高等学校	南丹市	畜産業の未来を育てる
117	6月10日	伊根漁港近辺	伊根町	水産業の未来を育てる
118	7月1日	公益財団法人関西盲導犬協会	亀岡市	誰もが住みやすい社会
119	8月24日	イオンモール京都五条	京都市	未来の自分のために今できること
120	8月25日	ZET-BASE KYOTO	向日市	ゼロカーボンまちづくりの未来について
121	10月6日	京都府中小企業技術センター	京都市	技術の力でイノベーションの都に
122	10月25日	梅小路公園 七条入口広場	京都市	私たちの理想の「まちづくり」
123	11月2日	ATARIYA Tango Innovation Hub	与謝野町	活力ある地域を目指して
124	11月3日	史跡 恭仁宮跡	木津川市	文化観光拠点としての恭仁宮
125	11月17日	京都認知症総合センター	宇治市	誰もが住みやすい社会
126	11月30日	京都経済センター	京都市	商店街のこれまでとこれから
127	12月13日	日図デザイン博物館	京都市	障害者芸術の持つ力
128	12月16日	やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」	八幡市	地域の農産物や特産品の展開

回	日時	場所	テーマ
111	1月15日	大谷大学 京都／本部キャンパス 京都市	子育てしやすい環境づくり

参加者の主なご意見
○子どもがオムツを替えられる場所が増えていたり、施設の利用が安くなったり、補助金が出たり、保育料が安くなるなど金銭面での支援など、少しずつ取り組んで頂き、徐々に子育てしやすくなっていると感じる。 ○第2子から保育料が無償になるというのはすごく助かる。 ○地域の人達との交流の場が少なくなっているように感じるので、地域全体で子育てを見守ったり、Lindenなど保護者同士が話したりできる場があると良いと思う。 ○子育てが家族内だけで留まるのではなく、近所の人達だったり、他の子育て世代の方達と交流できたら悩みも共有できるし、家庭内だけで収めるんじゃなくて、みんなで協力するのが大切だと思う。

京都府の対応・施策反映状況
【子育てにやさしい街づくり】 ■子育てにやさしいまちづくり推進交付金（104,500千円）R8当初【継続】 ・「まち全体で子どもを見守り支える」まちづくりを進めるため、市町村がエリア内で策定する「子育てにやさしいまちづくり推進計画」をハード・ソフト一体で支援してまいりたい。 【人材育成】 ■京都未来人材育成プロジェクト事業（24,500千円）R8当初【継続】 ・将来の京都を支える人材の育成・定着につなげるため、京都の大学生が在学中に府内の地域や企業と交流し、地域や企業についての理解を深める機会の拡大を図る。

回	日時	場所	テーマ
112	3月18日	サンガスタジアム by KYOCERA 備蓄倉庫 亀岡市	地域防災力の向上について

参加者の主なご意見
○普段から非常食の準備やハザードマップの確認など、一人ひとりが意識を高めることが大事だと思う。 ○探求学習を通じ、地震はいつでも起こりうるのだと改めて感じた。防災の知識などを一人ひとりが身につけていく必要がある。 ○全国的に、消防団のなり手が少なくなっているようで、少しでも若い人に消防団のあり方、消防団とはどういった存在なのか、どういったことをやっているのかを知って頂きたい。 ○女性消防団というと男性、消防士と同じようなことをやっているというイメージが先行しなかなか女性消防団に入りにくい現状にある。どういう形であれ存続できれば。

京都府の対応・施策反映状況
【環境・物資整備】 ■避難生活環境整備事業費（135,000千円）R 8 当初【継続】 ・避難者の災害関連死や健康被害を防ぐため、避難所等の良好な生活環境の整備に必要な資機材の確保 ■災害救助用備蓄物資整備費（130,837千円）R 8 当初【継続】 ・被災時の府民の生命・健康維持を図るため、避難所内避難者に加え、在宅避難者等を含む全避難者を対象とした災害救助用備蓄物資を市町村と共同で計画的に確保 【人材確保】 ■わがまちの消防団強化・応援事業（120,713千円）R 8 当初【継続】 ・消防団の活性化を図るため、消防団の自主的な取組を支援するとともに、大学生消防防災サークルに対する支援やふるさとレスキューの推進などにより、消防団員の確保等を実施

回	日時	場所	テーマ
113	4月10日	洛西境谷会館 京都市	安心・安全なまちづくり

参加者の主なご意見
○子どもの見守り活動や防犯パトロールの活動は、地域の方とのつながりを実感できるやりがいの一つ。 ○高齢化が進み、活動を辞める方が多くなっており担い手不足を懸念している。 ○自ら見守り活動やパトロールに携わろうという意欲のある人は少ないが、そういった意欲ある人をどのように見つけていくのかというのは課題。 ○自転車の道路交通法の改正に伴い、色々自転車のヘルメット着用も推進しているが、一般の方のヘルメットの着用はなかなか見かけない。その辺の啓蒙、推進が必要と考える。 ○高齢化の進行に加え、共働きの世帯も増えてたことにより地域のつながりが薄くなっている。そのため地域全体で防犯意識の向上や企業・学校との連携の強化、見守り活動に参加しやすいような何か施策をお願いしたい。 ○防犯に関しては、子どもの利用する公園に変質者が出ることがあるので、防犯カメラの増設など対応をお願いしたい。

京都府の対応・施策反映状況
【安心・安全なまちづくり】 ■防犯まちづくり推進事業（6,541千円）R8当初【継続】 ・犯罪のない安心・安全なまちづくり計画を推進するため、地域防犯活動の拠点「府民協働防犯ステーション」や、地域を守る子ども・地域安全見守り隊の活動支援、「ながら防犯」活動の推進等により、地域防犯力の向上を図る。 ■未来へつなぐ交通安全推進事業（2,500千円）R8当初【継続】 ・府民協働防犯ステーションにおける交通安全活動の支援、自転車安全利用推進員活動の支援、自転車用ヘルメットモニター制度による自転車ヘルメット着用の普及促進のほか、危険予測教育機器等を用いた高齢者向け交通安全教育を実施し、交通事故のないまちづくりを推進 ■おもてなしのまち京都あんしん見守り事業（16,935千円）【継続】（京都府警） ・繁華街や観光地における治安対策として、街頭防犯カメラの設置により犯罪や交通違反の未然防止を図る。 ・自転車取締小隊(Be-Unit)の運用による迅速な現場対応と安全な自転車利用環境の確保

回	日時	場所	テーマ
114	5月9日	堀川団地 出水第3棟 317号 "no.317 ANEWAL Gallery"	商店街を核とした地域活性化
		京都市	

参加者の主なご意見
○通販などの台頭により買い物客が減ってきているが、直接店主と話しをしてモノを見て購入してもらうことができるのが商店街の魅力・価値だと考える。 ○子ども達がもっと街づくりや商店街づくりなりに参画して、ごっこ遊びとか体験とかに留まることなく、参画していけるような動きができればいいなと思う。 ○商店街が好きで何か自分も運営に関わりたいてと考えても、学生という立場から何ができるのか、関わり方がわからない。商店街全体の課題であると思う。 ○何か商店街を利用してもらう仕掛けが必要となった時にアイデアが出ない。外部の意見が必要となってくるが、そういう客観的な意見が集まってくるとすごく参考になる。 ○小規模な商店街であれば財源が足りず、思い切った事業が実施できない。その部分について行政に支援をいただきたい。

京都府の対応・施策反映状況
【商店街の活性化】 ■商店街に関わる人材育成交流促進事業（3,200千円）R8当初【継続】 ・商店街が行う商店街のビジョンづくりや勉強会等人材育成に資する事業を支援するとともに、商店街に関心のある事業者や学生等と商店街とのマッチングを促進する。 ■地域課題解決コミュニティ活性化事業（20,200千円）R8当初【継続・一部新規】 ・商店街等が自ら地域課題を解決するために取り組む事業について支援 【子育てに優しい商店街づくり】 ■子育てにやさしい商店街づくり事業（1,000千円）R8当初【継続】 ・小さいころから商店街への愛着を育むとともに、家族連れでの来街のきっかけづくりとして小学生等を対象にした「京都の商店街」等の出前講座の実施や、商店街での子育て支援について事例を横展開し、みんなで一緒に考えるフォーラムの開催

回	日時	場所	テーマ
115	5月22日	京都高等技術専門学校 京都市	ものづくり産業を支える人材育成

参加者の主なご意見
○専門校の学習は難しいが、すぐに就職に生かせると思うので頑張って取り組みたい。 ○プロダクトマネジメント課は朝の10時から授業が始まるので、子どもを保育園に送ってから通学できるというのがとてもよいと思う。 ○専門校の卒業生は専門的な学習により基礎となるベースがしっかりしており、仕事を安心して任せることができる。幅広く活躍できる人材の育成ができています。 ○職場環境については、子育てしていたら急に熱出たりとか、病気したりとかがあるので、そういったことに柔軟に対応していただける企業が増えてほしい。

京都府の対応・施策反映状況
【人材育成】 ■高等技術専門学校運営費（269,433千円）R8当初【継続】 ・職業能力開発促進法に基づく公共職業能力開発施設として、府内に4校の府立の高等技術専門学校（京都高等技術専門学校、陶工高等技術専門学校、福知山高等技術専門学校、京都障害者高等技術専門学校）を設置し、新規学卒者や離職者等を対象に、希望する職業に関する技能や専門知識を身に付ける訓練を行い、就職に結びつくサポートを実施 （主な取組） ・京都高等技術専門学校プロダクトマネジメント科では、子育て中の女性や、ブランクがあり再就職を目指す方など、様々な状況の方に対応した授業を行い、ものづくり産業を支える人材の育成 ・時代に即したものづくり産業を支える人材を育成するため、訓練科やカリキュラムの継続的な改善・見直し ・「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言企業」の実践を促進し、子育てにやさしい職場環境の拡大を目指します。 （参考） R8訓練生募集定員：計255名 R7訓練生入校者数：計174名 R6訓練生就職状況：就職率94.3%

回	日時	場所	テーマ
116	5月31日	京都府立農芸高等学校 南丹市	畜産業の未来を育てる

参加者の主なご意見
○この3年くらいで物価が上昇して、どんな機械、素材、原料を買うにしても高くなった。そんな中で京都府には、いろんな形でご支援していただいていることに感謝したい ○飼料代は高騰するまでは酪農経営の半分ぐらいを占めていたところ。その辺がどこの農家さんでも負担となっている。 ○海外の方にも技能実習などで働いていただいているが、そういった方でも長く働けるような環境整備ができればありがたい。 ○農芸高校で畜産を学んでいるうちに、農芸高校の環境がすごく大事だと思った。この環境を守り続けていくことが、担い手の育成ひいては、今後の京都の畜産を守ることに繋がる。農芸高校の牛舎が古くなっているので整備をお願いしたい。

京都府の対応・施策反映状況
【経営支援】 ■農林水産業経営基盤強化緊急支援事業（340,000千円）R7 12補正【継続】 ・長引く物価高騰や気候変動により、経営が厳しい状況にある農林水産業者等に対し、いち早く来年の高温への備えや品質向上に取り組めるよう、ソフトとハードの両面から緊急的に支援することで、農林水産業者の経営強化を図る。 【人材育成・確保】 ■京都畜産未来の担い手づくり事業（2,319千円）R8 当初【継続】 ・畜産に係る技術や知識を有した後継候補者を確保するとともに、後継候補者が円滑に畜産業への就業から経営継承による就農に至るよう畜産農家の法人化を進めて就業条件の改善や対外信用力の向上等を図り、円滑な経営継承とビジネス感覚に優れた畜産経営を実現する。 ■畜産新規参入促進事業費（20,000千円）R7 2補正【新規】 ・畜産の担い手が減少する中、新規参入に資する取組を実施することで、畜産への新規就農者の確保を図る。 ・畜産への新規参入に取り組む事業者等に対し、簡易畜舎、給水器、牧柵及び家畜等の家畜飼養に必要な施設等の整備にかかる経費を支援 ・畜産センターにおける和牛受精卵の移植体制及び京地どり素びなの供給体制を強化 【教育環境整備】 ■教育振興設備充実事業（24,000千円）R8 当初【継続】 ・理科教育振興法及び産業教育振興法に基づき、高等学校における理科教育及び産業教育の充実を図る。 ■夢に応えられる府立高校づくり事業（68,781千円）R8 当初【継続】 ・生徒一人一人に応じた教育と時代の変化に対応した教育の実践により、生徒の個性や能力を最大限に伸ばし、希望進路の実現を図る。

回	日時	場所	テーマ
117	6月10日	伊根漁港近辺	水産業の未来を育てる
		伊根町	

参加者の主なご意見
○漁獲量は年々減少傾向にある。組合員の生活を支えるためにブランド化を目指す、漁価をあげるなど、量より質をあげるというのが必要になる。 ○物価高による資材や飼料代、船舶を毎日使うため燃料費などが高騰しているにも関わらず、海外からの輸入品の影響もありマグロの販売価格が上がらない。 ○漁船の値段も年々上がっており、自分の予算や就業規模に見合った漁船の購入ができない。 ○流通協同組合では組合員の減少が一番の課題。組合を運営しないと小売店も潤わないところだが、組合員の減少によって収益が少なくなっている。母体がしっかりとするためにも京都府にはまず芯となる組合にお力添えをいただきたい。 ○京都府漁協組合では女性の職員もいるが女性も活躍できるような職場環境を作りたい。

京都府の対応・施策反映状況
【生産基盤整備及び防災・減災】 ■農林水産業基盤整備事業（297,203千円）R8当初【新規・継続】 ・農林水産業のイノベーション実現のため、生産基盤を整備するとともに、安心・安全な地域社会の実現のため、老朽化が進む漁港等の機能保全を図るための整備及び、漁港海岸の整備改修による防災・減災対策を実施 ■京都府水産物生産・流通拡大事業費(7,000千円) R8当初【継続】 ・トリガイ養殖施設の導入等を支援し、新商品開発や生産拡大を図る。 【人材育成】 ■海の民育成事業費(8,820千円)R8当初【継続】 ・持続可能な漁業のため、府内産水産物の生産・流通拡大、次世代の担い手育成により漁業・漁村を活性化する。 ・漁業協同組合が行う漁船・漁具のリース事業を支援し、新規就業者の初期投資の負担の軽減を図る。 ■農林水産分野人材確保総合対策事業（水産インターンシップ事業）（1,326千円）R8当初【継続】 ・意欲ある人材に向けてインターンシップを開催し、漁業・漁村で生活・操業する将来像をイメージしやすくすることで、更なる人材確保につなげる。 ・チューターの設置や漁業者交流会を開催することで、新規漁業者をはじめとした新参者の漁村への定住を促進する。 ・漁協、金融機関、中小企業診断士協会、府等が連携して漁業における経営改善チームを編成し、経営改善に意欲ある漁業者をサポートすることで、経営に明るい人材を育成する。

回	日時	場所	テーマ
118	7月1日	公益財団法人関西盲導犬協会 亀岡市	誰もが住みやすい社会

参加者の主なご意見
○病院として盲導犬ユーザーの受け入れについて法律上受け入れ義務があるが、院内の導線であったり案内版などの環境の整備に問題がある。動物が苦手という患者もいるが、ユーザーと盲導犬と一緒に座って待っていただけるような環境が整えられるよう環境整備に対して補助等をいただきたい。 ○病院だけでなく、地域全体がみんなが理解してお互いが助け合うような社会の実現に向けて病院が一つのきっかけになりたい。 ○テレビやネットを通じて盲導犬の存在は知っておられる方はおられるが、誤解をされている場合もある。誤解や勘違いの無いよう正しく理解してもらえるよう啓発が必要。 ○盲導犬に触れたり、スマホでのユーザーや盲導犬の無断撮影や歩きスマホなど、気を付けていただくようお願いしたい。 ○行政が中心となったイベントに、盲導犬協会や病院のブースなどを出したりすることでより多くの人に知ってもらえると思う。

京都府の対応・施策反映状況
【補助犬育成】 ■京都府身体障害者補助犬育成事業（3,000千円）R8当初【継続】 ・重度の身体障害者の自立及び社会参加の促進を図るため、身体障害者補助犬の育成及び訓練を実施。補助犬の育成及びこれを使用する身体障害者の施設等の利用の円滑化を図り、身体障害者の自立及び社会参加の促進に寄与することを目的としている。 ・盲導犬・介助犬・聴導犬の同伴ができる飲食店などに補助犬ステッカーの配布を実施 (参考) 令和7年度 補助犬1頭の育成の委託を実施

回	日時	場所	テーマ
119	8月24日	イオンモール京都五条 京都市	未来の自分のために今できること

参加者の主なご意見
○女性のみならず、男性の方も女性の性と健康を知ることによってパートナーとの関わりが深く豊になると思う。男性の方もプレコンセプションケアに興味を持ってもらいたい。 ○性教育に関する正しい知識だけでなく、社会全体がその人の生き方を応援しているという雰囲気だったり制度が大事だと思う。 ○ネット上には誤った情報が沢山上がっていたりするので、正しい知識を身に着けるために、フランクに情報交換できるような場があるとうれしい。

京都府の対応・施策反映状況
性別を問わず、相手の意思を尊重し、良好な人間関係を構築するSRHR※1（性と生殖に関する健康と権利）の考え方を基本として、幼児期から社会人に至るまで各ライフステージに応じたプレコンセプションケア※2を推進する取組を実施。 具体的には、出前授業等により、各ライフステージに応じた科学的知識とライフデザインについて考える機会を一体的に提供する取組や、幼児期から若手社会人に加え、保護者や企業の人事担当者など、周囲の方にSRHRやプレコンセプションケアの基本的な意識を共有するためのセミナーなどにより、普及・啓発を行っています。 【普及・啓発】 ■プレコンセプションケアプロジェクト推進事業費(2,400千円) R8当初【継続】 ・性や妊娠に関する科学的な知識とライフデザインについて考える機会を一体的に提供する「きょうとプレコン」の周知や、小・中学校等へ助産師を派遣し、出前授業を実施 【人材育成】 ■若者ライフデザイン・育児と仕事両立体験事業費(18,500千円) R8当初【継続】 ・プレコンセプションケアの観点も含め、企業の若手社員や大学生等がライフデザインを前向きに考えることができるセミナー・ワークショップの実施や、企業の人事担当者や産業医等が社内研修等で使用できる研修プログラムを作成。 ・上記の他、全世代に向け、各種イベント等での広報・啓発を実施。 ※1 体の自己決定権とも呼ばれ、一人一人が自分の性や妊娠の在り方を決定できる権利を持ち、そうした権利を他人が侵害してはならないという考え方 ※2 性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う取組

回	日時	場所	テーマ
120	8月25日	ZET-BASE KYOTO 向日市	ゼロカーボンまちづくりの未来について

参加者の主なご意見
○ZET-BASE KYOTOの存在を知らなかった。夏祭りといったイベントをもっと増やして学生にも身近な存在になってほしい。 ○SDGsなどを耳にする機械は多くあるが、聞くだけでは全然意識が変わっていないと感じる。もっと自分が身をもって感じられるような機会が増えれば嬉しい。 ○高校での学びをもっと色々な企業とコラボできるような機会があれば嬉しい。 ○イベントなどを通じ企業のマッチングなどを継続していくことが必要である。

京都府の対応・施策反映状況
企業や大学、スタートアップ、地域住民、若年層など多様な主体の交流と共創を促進するイベントの開催や企業マッチングを通じて、ゼロカーボンまちづくりの実現に取り組んでまいります。 【令和7年度】 ・ZET-BASE KYOTOにおいて、地域住民が参加できるイベントを開催し、ZET-BASE KYOTOの認知度向上に向けた取組を展開 ・国際カンファレンス「ZET-summit」の開催により、企業間マッチングを促進するとともに、高校生による研究成果の発表機会や、高校生と企業との協働を促進する機会を創出 【令和8年度】 ・ZET-summitを継続開催し、国内外の脱炭素関連スタートアップ企業と大企業等との交流や、産学公の関係者が一堂に会して京都のまちづくり・地域産業への技術導入に向けた提案・検討等を行う機会を創出 ■ZET-valley推進事業（17,000千円）R8当初【継続・一部新規】 ・ZET-BASE KYOTOを拠点として、地域住民や地元企業、若年層など多様な主体が集まり、最新の脱炭素テクノロジーを学び、実際に体験する「ZET-campus」を開催し、日常生活への脱炭素技術の普及を促進

回	日時	場所	テーマ
121	10月6日	京都府中小企業技術センター 京都市	技術の力でイノベーションの都に

参加者の主なご意見
○人と人が繋がって、技術が組み合わさって融合していくということが大事。共創パートナーシップであったりユーザーコミュニティなどがKRP地区から発展してほしい。 ○技術や研究がうまく育っていくにはどこか結びつけていくところが必要。公設試には、そういったところの非常に大きな役割を担っていただいていると思う。今後のサポートについても是非お願いしたい。 ○企業との共同事業などこういう風に成長していきましました。といった内容の見える化について力を貸してほしい。 ○実際に開発された機器や商品など、ある程度開発ができた段階で府の系列機関などで使用いただき、フィードバックをいただけるとありがたい。 ○地域の大学など、自分たちが解決できないような課題に対して知見を持っているようなところと、意見交換だったり、マッチングの機会があればと思う。

京都府の対応・施策反映状況
【研究開発・技術支援等】 ■中小企業技術支援・研究開発事業費（54,200千円）の一部 R8当初【継続】 ・「KRP地区共創パートナーシップ」が立ち上がり、中技センも構成メンバーとして参画。本会議を通じて、地区全体での支援情報発信等について検討を進めているところ。 ・企業が中技センを活用するメリットを分かりやすく伝えるため、「支援事例集」を作成しているところであり、令和8年度は更なる事例作成件数の拡充を図ることとしている。 ・企業の要望に応じ、開発製品を中技センに開放機器として設置し、テスト運用することを令和7年度モデル的に実施。8年度に向け、案件数の拡充に努めていく。 ・令和7年度半導体に関するテーマで京都大学ナノテクノロジーハブ拠点と産学交流会を立ち上げ、令和8年度は加工～評価を一貫して行う流れを意識した企業向け体験会も検討しているところ。

回	日時	場所	テーマ
122	10月25日	梅小路公園 七条入口広場 京都市	私たちの理想の「まちづくり」

参加者の主なご意見
○一つの目標に対してみんなで協力して物事を作り上げることの大切さを学んだ。みんなが笑えることが一番だと思う。みんなが自分の意見を言えるような街に住みたい。 ○物事を進める責任感を学んだ。一人ひとりが周りの人を気にして、優しくし合えるまちに住みたい。 ○自分のしたいことをして作ったりとかっていうのを目いっぱい楽しんでいる姿を見て、アイデアを持つことがすごく大切だなと子ども達から学ぶことができた。 ○保護者の方の子育てをサポートしてくれる児童館とか、そういう場所が身近にあると子育てを楽しめると思う。 ○参加者の皆さんを見ると、ご両親も子どももすごく笑顔だった。こういう家族で参加できるイベントがもっとたくさんあったら、良い社会になると思う。 ○子どもと関わることで自分も親になって子育てをしてみたいという気持ちになった。

京都府の対応・施策反映状況
【子育て環境日本一へ向けた取組】 ■子育ての楽しさ広げる事業費（京都版ミニ・ミュンヘンの取組拡充） （17,000千円 ※うち一部）R8当初【拡充・継続】 - 子どもと若者の交流機会を創出する「京都版ミニ・ミュンヘン」の効果を波及させ、持続性を担保するため、府市連携による実施に加え、蓄積したノウハウをもとに府内各地での開催を進めることで、取組への賛同者を拡大してまいりたい。 ■子育てにやさしいまちづくり推進交付金（104,500千円）R8当初【継続】 「まち全体で子どもを見守り支える」まちづくりを進めるため、市町村がエリア内で策定する「子育てにやさしいまちづくり推進計画」をハード・ソフト一体で支援してまいりたい。 ■保育や地域の子育て支援充実事業費（地域子育て支援拠点事業） （3,296,507千円 ※うち一部）R8当初【継続】 - 公共施設や保育所、児童館等において、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供し、地域の子育て支援のための取組を実施する事業等を支援してまいりたい。 ■子育ての楽しさ広げる事業費（WEラブ赤ちゃん”ええ顔”キャラバンの開催） （6,000千円 ※うち一部）R8当初【継続】 - スポーツチームや文化施設、学生等と連携し、多様な世代が訪れる場所で子育て世帯が楽しめるイベントを「WEラブ赤ちゃん“ええ顔”キャラバン」として府内各地で開催

回	日時	場所	テーマ
123	11月2日	ATARIYA Tango Innovation Hub 与謝野町	活力ある地域を目指して

参加者の主なご意見
①販売している商品の注文数を増やしたいが、職人の数が足りないことから対応できず難しい現状。 ②雇用の創出は大事だが、そもそも雇用できる人・事業所が少ない。 ③この地域に來たいと思ってもらえる人をどう増やしていくかが課題。 ④「こういう企業があるよ」というような企業紹介をおこなう分かりやすいプラットフォームなどがあれば嬉しい。

京都府の対応・施策反映状況
【人材育成】 ■丹後わかもの夢実現プロジェクト推進事業（3,650千円）R7当初【一部新規】 （目的） ・地域の活力となる若者が丹後地域に住み続けたい、戻ってきたいと思える地域づくりを進めるため、未来の丹後を切り拓く担い手づくりを推進 （主な取組） ・若者の生業づくりに向け、先輩経営者と若者の起業等の交流会を開催 ・地域で頑張る若者を記事としてSNSで発信するとともに、都市部の若者と地域で活躍する若者の交流会を開催 等 ■丹後のものづくり産業振興事業（3,500千円）R7当初【一部新規】 ・地元高校生が地元企業の魅力や取組を知るための交流会を開催 等

回	日時	場所	テーマ
124	11月3日	史跡 恭仁宮跡 木津川市	文化観光拠点としての恭仁宮

参加者の主なご意見
○行政のお力添えもあり、史跡の整備が進み昔の都を創造できるような姿になりつつある。近隣にお住まいの方もおられるが、ある程度都を想像できるような姿が一部であればよいと思う。 ○恭仁京がこの地域の文化発信の一番の中心になっていただきたいという思いは強くあるが、知名度が低いのが課題。 ○この地域（瓶原）には日本各地と勝負のできる文化遺産があるので、10年に1度ぐらいは全国にPRできるようなイベントをしつつ、まずは多くの方に知っていただきたい。 ○この地域の歴史についてどうやって次の世代に関心をもってもらうかが必要。

京都府の対応・施策反映状況
【地域創生】 ■京の史跡・歴史遺産活用整備事業費（12,000千円）R8当初【継続】 特別史跡に昇格した恭仁宮跡の活用整備事業化に向け、文化財活用の基本構想の策定を行い、「グレーターけいはんな広域連携プロジェクト」に掲げる「文化・観光拠点」の実現に向けた文化庁等と連携した地域創生に繋がる文化関連施策としての取組を推進する。

回	日時	場所	テーマ
125	11月17日	京都認知症総合センター 宇治市	誰もが住みやすい社会

参加者の主なご意見
○認知症の方が住み慣れた地域で過ごしていくためには、地域でのコミュニティの中で、スーパーやコンビニ、銀行であったりと地域の協力は欠かせない。異業種連携協議会等を通じてますます連携した協力が必要。 ○認知症について広く周知されてきたところではあるが、なるべく早期の段階から受診していただけるように、若い年代から勉強会や講義などを通じて認知症について知っておいていただく必要がある。 ○地域という枠組みで、福祉とか行政とかいろいろな職種も含めた企業等、みんなでいろいろな課題感を話し合ってみる場が大切だと思う。 ○宇治にあった先行的な認知症事業「れもねいど事業」と融合したことで全国的にみても総合センターの成功モデルとなることができた。さらに先を行くため、総合センターに大きな役割と予算を持たせ、今後もモデル的存在として発展させたい。 ○伴奏支援の大切さを身をもって知った。相談支援援助者等、京都府としての取り組みが促進していくと前を向く認知症患者の方がもっと増えていくと思う。

京都府の対応・施策反映状況
〔事業の趣旨・目的〕 第3次京都式オレンジプランに基づき認知症の本人の活動支援、認知症の本人・家族を支える地域体制構築、医療・介護の提供体制構築に取り組む ■認知症総合対策事業費（78,337千円）R8当初【継続】 ・認知症にやさしい異業種連携協議会の実施 ・認知症疾患医療センター運営事業 ・認知症初期集中支援チーム員養成研修（国研修へ派遣）、スキルアップ研修（府実施） ・認知症総合センター機能強化事業

回	日時	場所	テーマ
126	11月30日	京都経済センター 京都市	商店街のこれまでとこれから

参加者の主なご意見
○「商店街これかラボ」について、様々な人と繋がり少しずつ知り合いが増えていき会話できるような人が増えていった。いい環境であると思う。 ○商店街のイベントなどを契機に、Uターンで地元に戻ってきて起業する人がいたり、地元の方が空き店舗を活用したフリースペースを作ったりと一緒になって商店街の活性化に取り組むことができ、地域の方に沢山お見えいただくことができるようになった。 ○コンパクトシティとして住民の方に住んでいただきながら、商店街に色々なお店に入ってもらいたい。

京都府の対応・施策反映状況
■商店街に関わる人材育成交流促進事業（3,200千円）R8当初【継続】 ・商店街が行う商店街のビジョンづくりや勉強会等人材育成に資する事業を支援するとともに、商店街に関心のある事業者や学生等と商店街とのマッチングを促進する。 ■地域課題解決コミュニティ活性化事業（20,200千円）R8当初【継続・一部新規】 ・商店街等が自ら又は多様な主体等と連携して地域課題を解決するための取組を支援するとともに、事業者が空き店舗等を活用して行う新たな出店や創業を支援する。

回	日時	場所	テーマ
127	12月13日	日図デザイン博物館 京都市	障害者芸術の持つ力

参加者の主なご意見
○展覧会が終わった後も知事室で作品が飾られることで「とっておきの芸術」に対する認知が広まっていく。知事室等にて作品が飾られることはとても良いことだと思う。 ○京都府ではずっと障害のある人の作品をアーカイブ化されているが、これはとてもいいことなので、ぜひ続けていっていただきたい。 ○普段歩行器を使用するがちょっとした段差が街中にありよく躓いてしまう。その辺りにもう少し気を配っていただきたい。

京都府の対応・施策反映状況
【障害者芸術】 ■障害者文化芸術推進事業（30,285千円）R8当初【継続】 ・府内の障害のある方々がそれぞれの個性や才能を発揮する場として、絵画、陶芸、写真、書、俳句、川柳、諸工芸の7部門の応募作品を全て展示 ・京都の歴史と文化を基盤として、「京都とっておきの芸術祭」の開催等を通じて障害者の芸術紹介、育成を行い、障害者の文化芸術活動の可能性を広げ、障害者の社会参加の促進を図ることを目的としています。 ・「アートと障害のアーカイブ・京都」において、デジタルで作品を記録、保存するサイトを運営。企業等から作品展示を希望される場合は、当サイトから作品を選定いただき、原画の展示を行ってまいります。 ・京都とっておきの芸術祭へ出展作品の中から作品選定し、バナー（原画ではない）を作成し、障害のある方の作品展示希望があった場合、無償貸出を行ってまいります。

回	日時	場所	テーマ
128	12月16日	やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」	地域の農産物や特産品の展開
		八幡市	

参加者の主なご意見
○農業を取り巻く情勢というものはかなり厳しさを増している。気候変動並びに生産資材の高騰の割に、野菜の値段というのが上がらないというのが現実。農家は厳しさの一途をたどっている状況の中で、次の世代につなげていくような産地づくりを行う必要がある。 ○平成生まれの農家が育っていないことに危機感を感じる。 ○新規就農向けの支援は多い一方、設備投資の壁から断念する例もある。親元就農は補助金対象になりにくい、土地や道具を活用できる利点を生かすことができるので、対象となる支援制度を整えれば、就農はよりスムーズに進むと考える。そういった仕組みを作ってほしい。 ○野菜や米の販売価格について、どれだけの経費がかかり生産されているかということが消費者に理解されていないと感じる。農家の後継ぎを育て、安定した収入を得られるようそういったところのアピールが必要。

京都府の対応・施策反映状況

京都府では、農業者が安定的に所得を確保できるよう収入保険などの国のセーフティネットへの加入を促進しつつ、省エネ・高温対策機器の導入や販路開拓など生産・販売両面から経営力を強化し、長期的に効果が期待できる支援を実施しているところ。

国では、農産物の適正な価格形成に向け生産コストを考慮した取引を義務づける法律を制定し、本年4月以降に施行することとしており、京都府としては国に対して、条件不利産地条件を考慮したコスト指標の作成など、実効性のある仕組みの構築を要望しているところ。

〔事業の趣旨・目的〕

近年、高温や渇水の影響による農産物の収量減少や品質低下等が発生する中、今後の猛暑に備え、農業経営基盤の強化に資する機器の導入等を支援する。

■農業経営基盤強化（高温対策等）事業（農産課分）

令和6年度2月補正	（188,000千円）
令和7年度6月補正	（40,000千円）
9月補正	（30,000千円）
12月補正	（30,000千円）
合計	（288,000千円）

■農林水産業人材確保育成戦略事業（41,786千円）R8当初【継続（一部新規）】

京都農人材育成強化事業（479,853千円）R8当初【継続】※親元就農への支援を含む

・若年者や親元就農を含む、農業の担い手を確保・育成するため、農業への誘導から相談・体験、研修、就業、経営発展まで一貫した支援を実施する。

■農林水産業経営基盤強化緊急支援事業（340,000千円）R7 12補【新規】

・長引く物価高騰や気候変動により、経営が厳しい状況にある農林水産業者等に対し、いち早く来年の高温への備えや品質向上に取り組めるよう、ソフトとハードの両面から緊急的に支援することで、農林水産業者の経営強化を図る。

■京野菜生産加速化事業（103,300千円）R8当初【継続】

・京野菜等の収益性の高い産地を強化するために必要なパイプハウスの整備や、省力・低コスト生産及び流通の合理化に必要な機械の整備等の取組を支援する。

■京野菜産地基盤づくり事業（15,200千円）R8当初【継続】

・生産者同士が連携して集出荷体制を構築するために必要な加工・流通機械の整備や、集出荷調整システム導入等の取組を支援する。

普及センターでは普及指導計画を策定し、次世代を担う農業者の育成を行うため、様々な支援を実施。

基礎講座：就農5年以内の新規就農者や農業法人従業員が対象になっています。農業に関する知識や技術の習得に加え、自らの栽培上・経営上の課題を抽出し解決に向けて行動できるように支援を行っています。

経営講座：若手農業者や後継者が対象になっており、市町村と共同して開催しています。各農業者の経営課題に応じて会計管理や労務管理の基礎知識習得の支援を行っています。

経営継承講座：経営継承に必要な知識の習得のため、地域の経営体を対象とした講座を開催しています。また、将来的に経営継承を考えている経営体への支援を目的として経営継承が終了した事例の収集を行っています。